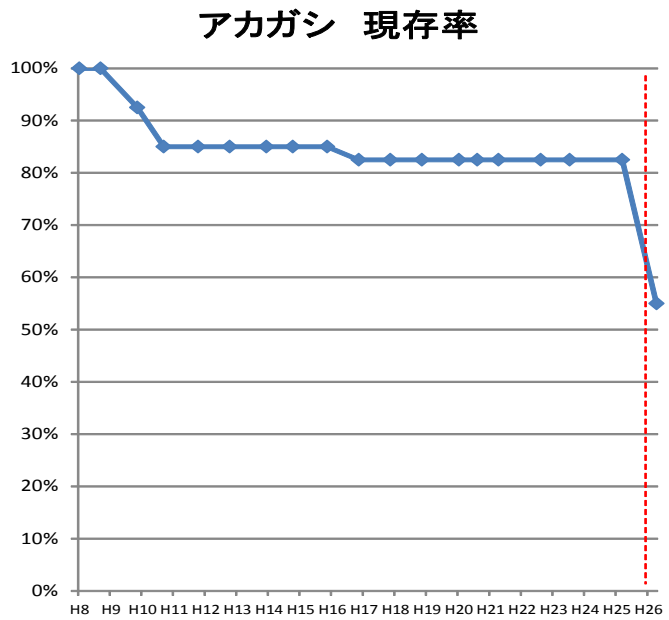
樹種名	アカガシ
科　目	ブナ科
学　名	*Quercus acuta*
分　布	本州の宮城県･新潟県以西、四国、九州、国外では朝鮮半島南部、中国、台湾に分布する。 山地に自生し、屋敷や神社にも植えられている。
樹木特性	半陰樹であり伐採すると切り株から萌芽する。萌芽発生本数が最大となるような切り株直径は約 20 ㎝前後で萌芽本数は 10 本程度である。 さらに、萌芽発生が見込まれる最大の切り株直径は約 60 ㎝以上である。
用　途	材は非常に堅く柾目に虎斑、板目に樫目模様があって美しく床柱・器具材に賞用される。庭木、建築・船舶・楽器・農具材に利用。
植栽本数/面積 （植栽密度）	60 本／ 0.02ha （3,000 本／ ha）
特　徴	【樹　形】 常緑高木で高さは 20~25m、胸高直径は 70cm になる。 樹皮は灰黒褐色で、皮目は目立たないが多い。 老木では、不揃いな薄片となって剥がれる。 葉は互生し、枝の先に集まる。葉は長楕円形で、鋭尖頭を呈し、縁は全縁だが、まれに上部が波状になる。 両面無毛、表面は深緑色で光沢がある。
試験地での様子	ポット苗を植栽し、苗植栽後 2 年を経過した時期に枯死が発生した。植栽から 18 年が経過し、平均樹高も 10m 程度まで順調に成長している。
被　害	野兎・鹿の被害は特に無かった。 植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。（延べ駆除本数：7 本）



【現存率】

植栽後にコウモリガ、カミキリムシ類の穿孔被害により枯死が発生した。（枯死数 7 本）

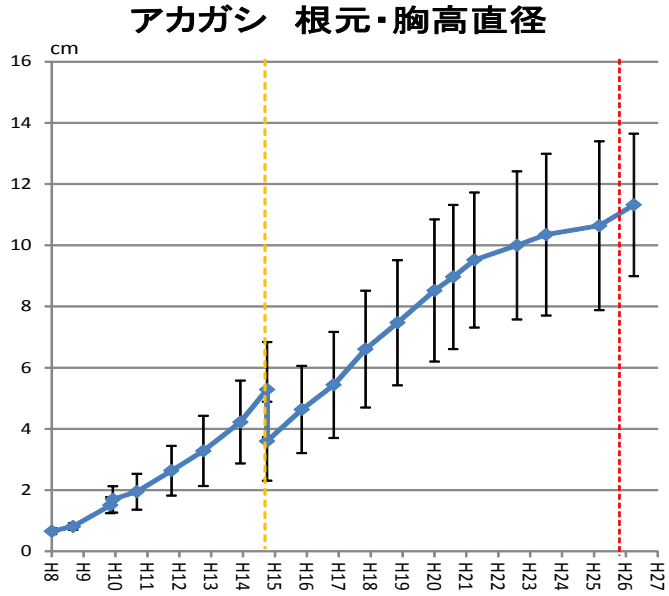
平成 10 年度以降の枯死は見られなく推移した。

林内の照度調整を図るため平成 17 年、18 年、平成 20 年、平成 21 年に本数調整伐（9 本）を実施した。

本数調整伐で実施した以外の調査木の現存率は 84 %（H 25.6 時点）である。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 55.0%であった。

※　赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。



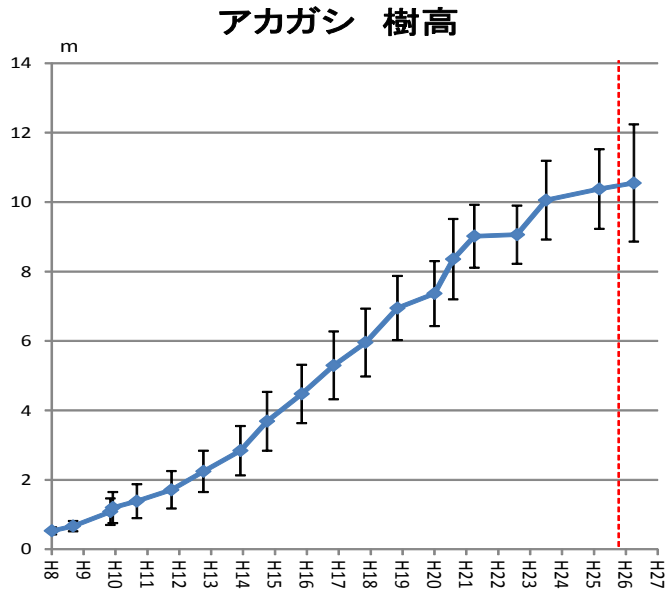
【根元・胸高直径】

植栽後 18 年を経過し、順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 11.32 ㎝であった。

※　赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所の変更のため、データの連続性はない。



【樹　高】

植栽後 18 年を経過し、順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査をした結果、平均樹高は 10.84m であった。

※　赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

《プチ情報》

和名は、材が赤いことから付けられた。

1978 年、古市古墳群の一つである三ッ塚古墳からは、アカガシを使った修羅が発掘され話題となった。